

2015年春学期レポート
日本財団聴覚障害者海外奨学金事業

第9期生 瀧澤 泉

2015年1月23日(金)、ギャロデット大学特別聴講生として入学。英語学習を中心に英語60クラス(English60)と子供・家族・コミュニティクラス(Child, Family and Community)を履修。

【春学期(履修クラス)】

1) English60 (英語 60)

英語クラスは、Degree of Reading Power(リーディングテスト)と The Gallaudet Writing Exam(ライティングテスト)を受けて、自分のレベルに合ったこのクラスを選択した。週に3日、Reading(読解力)とVocabulary(語彙)を中心に朝1時間半と午後にWriting(ライティング)1時間半で3時間の授業を受けていた。

2月～3月中にReadingクラスでは「A Dream Fulfilled(夢の実現)」(バラク・オバマ大統領の子供時代、家族、価値観、夢などが書かれた本)を読んだ。小説の内容を読み取り、教師からの質問に答えることや課題を済ませるなど準備してクラスに参加した。Vocabulary(語彙)は前から私の弱点であり、基礎を固めて暗記しながら読書をし続けることができた。もう一つの小説、「We are beat street」(実話: 貧困な生活のなかで黒人3人が医師になる夢を実現した)に入り、クラスでディスカッションを行いながら小説の背景や意味を分析するなど文学クラスに入った気分で、読み進めることが出来た。深く分析して理解できたのは、この本が初めてであった。2、3週間ごとに小テストを受けて、良い成績が残るように深夜まで学習してきた結果、ほとんど良い点数だった。特にVocabulary(語彙)に関する小テストは、毎回、科学や地理、歴史に関するテーマが出されるので理解するのに時間がかかり、7問中6問以上正解になるようにするには、懸命に練習しなければならず、一番の苦戦であった。大学や大学院では、分厚い本を毎日のように読んでレポートに書くことになるので、日頃から本を読むようにと先生に言われている。今から、本を読む習慣をつけて

いきたい。

2) Child, Family, and Community (こども、家族、コミュニティ)

もう1つ履修したのは社会福祉に関するクラスで、学生たちのほとんどが、米国のろう学校育ちだった。インテグレーション、デフファミリー、コーダ、養子などそれぞれ違った環境が、どのようにその後の成長に影響するのかなどを学生たちでディスカッションすることがメインであった。ディスカッションでは、ろう学校や親、メディア、社交、経験の共通点や異なる点について意見を出し合い、さまざまな視点を学ぶことができた。

このクラスの教師の経験談「タイヤ」がとても参考になり、印象に残った。子どもが興味をもっていることや趣味から学ぶ。遊びやアイデアを活かすことが、経験の鍵となる。他にも、学生たちの両親の役割や育ってきた環境によって、昔よりも分担を男女平等に、子供との関係性が良くなるようにすることが求められてきていることが分かった。また、暴力、離婚、性教育による影響についてのディスカッションでは、昔と比べて、最近は言葉による暴力が増えているようだと言った。言葉は見えない、跡に残らないものなので、更に難しい問題だ。

子供は失敗したり、環境の変化による経験から、さまざまなことを学ぶ。きちんと伝える、コミュニケーションを取ることが大切だ。重要な点は、子どもの行動や発言を分析し、成長するための手助けをしてあげること。大人の仕事だ。今後、ワークショップに参加する等自分自身がさまざまな経験を積み重ねていくことが将来に役立つと考える。

【まとめ】

英語学習をするとともに他のクラスにも参加し、学ぶことで、自分のやるべきことを知るきっかけとなった。絵本を作る時は、ろう児中心に考えるだけでなく、成人ろう者や多様な背景を持つ人たちについても学ぶことが必要だと改めて考えさせられた。

今年の秋学期からは、大学進学に決まったので、自分の進むべき道から外れずに、前向きに勉強に励んでいきたい。